

育の一般的目的是隨て道德性であらねばならぬ。だが道德的價值が最高の或は唯一の自立的の價值であるといふのでない。只そが第一に人間に要求すべき價值である事を云ふのみである。

一人間の道德的價值は善と惡とに等しく役立つ得る所の技倆にあるのでもなく又、常に只一部分は行爲者に屬する所の行爲の追求にあるのでもない、只正しき情操と意志本分の内にある。道德的と稱し得るのは自分で正當と思つたものを且それが偶然にも利益を將來するが故でなく、それを正當と認めるが故になすものを指していふのである。吾人は此の倫理の根本原則から吾人に取て重要な斷案を得なければならぬ(つゞく) (三月十一日稿す)

彙報

九〇

教育研究會例會

一月廿六日午後六時開會、伊藤猷典氏はナトル
著一般教育學を紹介せり。

二月二十三日午後七時開會。「歐米に於ける女子大學の育の始原」と題し野上博士の講演あり。英國に於ては一八四六年にクインズカレッジの前身が出来、五三年に公認され、四九年にベットホードカレッジがロンドン大學の一部に作らる。爾後諸他の大學は女子の入學を許すもケンブリッジのみは頑として男子同様の資格を與へない。

獨逸に於ては一八八〇年以前に女子の入りしものは、ライプチヒ、ハイデルベルヒ、ハルレ大學あり何れも院外聽講生としてなり、一八八八年にジェー、ケットラー氏が婦人革新協會を作り、女子も男子と同様に科學的研究に基いた職業の中に入れて欲しき事、女子の爲のギムナジウムを作り、又大學にも入れて欲しい等の事を請願した。そして

一八九〇年代から獨逸の總ての大學に入學を許すようになつた。而して統計によると女子の大學生徒數は男子の約二十分の一位しかない。……等の御話しあり、最後に我國の女子大學教育に就ては現今東大で行つてゐるやうな仕方でないに、總てを男子と同等に取扱ふと云ふ原則の下に女子の入學を許しても毫も差支はない。一般論として云へば女子は男子よりも脊丈は低い、けれども中には男子と同等或はより以上なのもある。智力に於ても一般論としては男子よりも低きも中には男子と同等又は以上なものもある。此等男子と同等、又は以上なものを女だからと云つて入學を拒む理由は少しもない。

又中には女子に餘り勉強をさせると家庭を作らないとか、女としての務をせないと称して批難する人があるかも知れぬが、獨逸の例に徴しても女子の大學教育を受くるものは男子の $\frac{1}{20}$ にしかならぬ。従て全國の婦人の幾萬分の一にしか當らない。幾萬人の婦人の内で一人や二人が女としての働をしなくとも大勢に關係はない。だから

結局女子の大學入學を拒むの理由は少しもないといふ話であつた。

倫理學會例會

三月二日午後五時より學生集會所で、卒業生の豫餞を兼ねて開會、法學部宮本教授の刑罰の意義に關する講演があつた。藤井教授も出席せられた。

新著紹介

支那佛
蹟踏査
古賢の跡へ

文學博士常盤大定著

此の書を手にするとき、吾々は一個の藝術品に對する崇高な感じと同じ感じをもつて眺ざるを得ないのである。實に本書は内容から論じて、外形から評しても、堂々たる眞の藝術味に溢るゝ、內的に吾々を悦ばしむる作品である。それは『藝術は趣味である。それは作家の手によつて作られた各々の對象物に於ける藝術家のハートを反映してゐる。それは實に家及びその他の附屬物の上に投げられた人間の魂の微笑である。それは思想と感情とのチャームをもつて人に有用なる凡てを孕んでゐる。』——と云ふロガンの詞に隨つてゐる。故に亦、著者博士は一人の藝術家であらねば